



第12回研究会 2022年3月22日

スパルタンイングリッシュ第12回は元・東京都立両国高校附属中学校の杉本薫先生を講師にお招きしての講演会です。杉本先生は僕が学生だった頃、長勝彦先生の授業研究会（長研）で出会ってから、授業についていろいろ相談させていただいたり、授業を見せていただいたり、杉本先生の主催する授業研に参加させていただくなど、大変お世話になった先生です。あまりに憧れて杉本先生が授業で使っていたピヨピヨ鳴るタイマーまで（今でも）同じものを使っています。ついつい、派手な活動、目新しいアクティビティなどを探してやってみることが授業改善だと誤解していた当時の僕に、授業をする上で大事なこと、芯となるものの考え方を、言葉ではなくその授業というか、背中で示してくれたのが杉本先生です。

授業研究会というと、どうしても「こんな盛り上がる活動がありますよ」「こんな目新しいアクティビティのやり方がありますよ」「このワークシートは使えますよ」のような活動紹介になってしまうことがあります。そこはさすが杉本先生、英語教育とは何か？英語教師とは何か？根本について考えさせられる密度の高い3時間となりました。学年末の忙しい時期ではありましたが、青森県内の中学校の先生を中心に、山形、東京など全国から合計22名の参加がありました。

第1部 授業の分岐点

教科書で教える

- 教科書の長所：All in One でとても便利
- ただし、授業の中心は教科書ではなく、「言語活動」
- 教師は教材を選ばなければならないというのが絶対条件＝どう使うかを考えなければならない
- 便利な教科書によりかかりすぎていると、「教科書さえ使っていれば」という話になってしまう危険性

言語活動

- コミュニケーション＝双方向のやり取り
- それ自体が目的（練習ではない）
- input と output を伴う：2つはセット・表裏一体
output することで input が成り立つ
※息継ぎのイメージ
〔水泳の指導で、息継ぎを使用する時、顔をあげる前に息を吐いておく
そうすると、自動的に息を吸える（顔をあげた時に息を吸って、はくのではない）〕
- 教科書の練習問題では、活動に入る前に何かできることがあるのではないかと問える（＝Output）が増えたり、広がったりしないか？
- 4技能5領域＋vocabulary&grammar と考える
やるが増えて大変？⇒増やしていない（いろんな項目があることは自覚しなくてはいけない）
- コミュニケーションの技能は1つ
- 単独の技能の練習はハードルが高い



コミュニケーションになっていない

モチベーションを保ちにくい（「どうしてもリスニングの技能を高めたい！」というほど、中学生（今であれば小学生）は高いモチベーションをもって英語学習に取り組んでいるか？

- ▶ vocabulary だけを取り出して、grammar だけを取り出して指導するのは、生徒に無理を強いているのでは？

まとめ

- ▶ 授業内で+生徒一人一人の中でコミュニケーションが動き続けていなくてはいけない
 - ▶ ひとつの技能は他と関連している
 - ▶ 目的がある＝「できる」にたどり着くまでが言語活動（communication）
 - ▶ 教わる＝周囲を見て学びとる（生まれてきた赤ちゃんが母語を身につけていく過程に近い環境をうまく教室に作れると効果が大きい）
 - ▶ 例えば、教科書の活動でも教科書の絵を見た瞬間に生徒は何かを思い、言葉を発する
 - ▶ それは我々が期待しているものではないかもしれない
 - ▶ そういう風に動き始めたコミュニケーションの中で練習を重ねていく
 - ▶ 「はい、何番やりましょう、次は何番です」のようにコントロールしすぎないこと
 - ▶ 生徒が選ぶことがポイント：選ぶ：余裕・充実感・達成感
 - ▶ 選択肢が多いほうが楽で楽しい
- 10個の単語を覚えて、10個できたら満点は楽なのか？
100個与えてそのうち好きなのを10個覚えてきなさい
- ▶ 正解はない＝答えがひとつしかないのはテスト（できたかできないかではない）
 - ▶ 教師が期待したことを言わせるのがゴールではなく、言えることが増えていくことがゴールへの近道
 - ▶ 期待した答えがなかなか出ないことが多い、先生方がそれを「待てますか？」
 - ▶ 今日期待したものが出来なかったら「明日でもいいよ」と言えますか？
 - ▶ いろんなことを・毎時間やる（ルーティン化）

参加者から

- 長先生「言語活動は柔道の乱取りである」
- 活動をやると、活動だけが先走って、なかなか定着しないことがある、どうすればよいか？

杉本先生

「その活動を通して何かを覚えさせようとしちゃうと、即効性はないと思う。短期間ではなく長いスパンで考えてほしい。」

- 小学校での英語を好きになる素地がとても大事。
- 新学習指導要領で語彙などの分量が増えたことが大変。取捨選択をどうしたらよいか？

杉本先生

「教科書が変わっても活動は変わることがない。いえなきゃいけないこと、覚えなければいけないこと覚えなければいけないことを、多い単語の中でも見極めることが大切である。逆に、100%覚えな



ければならない語彙に減らしちゃうともっと大変と考える」

- ルーティン化することの重要性。ただ、ルーティンになるまでが難しい。
- スモールトークやチャットで生徒がどうしても日本語を使ってしまうことにどう対処すべきか？

杉本先生

「いいことと考えましょう。言いたいことがあるわけですから。それをいいたいんだから、教師が何とかしてあげようという方向で考えてはいかがでしょう。何とか言いたいというのであれば、今はできないけどもう少しがんばりましょうと継続して指導することが大事です」

第2部：音読練習

音読は基礎体力

- 英語力の自信の元：音読できるから授業にしっかり参加できる
- 言語活動の基礎体力：英語音声がか口を突いて出てくる
- やればやるだけうまくなる：やったときとやってないときの差が明らかに出るのが音読
- ストレートに「暗記しなさい」は禁句
- 気が付いたら暗唱できた：そうなるまで練習を繰り返す

Reading の段階的な練習

1. よく聞いてまねをする：よく聞けて、よくまねできる人が上手になる
2. ひとりでどんどん音読する：自分で自分の音読が聞ける

—この2つは必ず毎時間やらなければならない—

3. ☆読み（1ページ5回読んだら☆ひとつ）

毎日増やすことがポイント

15分の音読が家庭学習のスタート

家庭学習は教室でやり始め、やり終えないところを家庭学習（途中まで授業で見てあげて、残りを家でやる）

終わったページも毎日☆を増やす復習

テスト前は25個を目標に（一晩で100回よりも、何週間もかけて25個増やした人の方が上手になりますよ）

4. 誰かに聞いてもらいながら音読

ルールを作ろう：音読練習中にも small talk

- ✓ あいさつ
- ✓ どっちが先に読むか英語で決める
- ✓ ほめることを原則にコメントする
- ✓ あいさつ

BGMをかけて：シーンとした中で読むのはちょっと難しい



5. 聴きながら（読む・言う）読みながら・言いながら（聞く）
 6. 意味を考えながら読む
 7. 伝えることを意識して読む（「アナウンサーの訓練をしていると思いなさい！」原稿を持っているが基本カメラ目線は外さない）
 8. 物語や役割を意識して読む
 9. 暗唱
- ▶ シンプルに言うとは何回読んだかで決まる部分がある
 - ▶ しかし、この回数を読めば、あるレベルに行けるとして「〇十回読みなさい」という言い方の指導では、モチベーションの部分でくじけてしまう
 - ▶ だから、手を変え品を変え、場面を変え、雰囲気変え、BGMを変えいつの間にか、何十回も読んでしまったという形になる指導が求められる
 - ▶ 教科書本文は言語活動で慣れ親しんだ英語の典型的・規範的なモデルのひとつ。音読で繰り返し練習することで定着を図る
※言語活動が最初（意味が分かって使えるように）
 - ▶ 「使える」ことが先。で、「分かる」。これが一番やさしい

参加者から

- 音読はスピーチなど他の活動との関連が強いので、家庭学習でしっかり取り組ませることが大事だと感じた
- 音読の順番について、個人⇒ペアになっているが、ペア⇒個人としたほうが、お互いに分からないことを聞き合う・確認し合うなどできるのでいいのではないかと？

杉本先生

「自分で口慣らしをしてから、ペアの方がいいのではと考えている。やりやすいほうでいいと思う。いずれにしても、自分で練習するという練習過程は必ず踏まえること。」

- 長先生から、音読の指導について頭に入れておくこととして
 1. センスグループ：意味のかたまり
 2. ブレスグループ：どのくらい息が続くか
 3. アイспан：どのくらい視野に入るか
 ※7単語くらいが目安になるのではないかと
- 「英語を使って認められる」ことが、エッセンス。これがモチベーション・家庭学習につながる。それにはまず、自分の意見を言えることが大事ではないかと？
- 音読における小中連携の重要性
- まずは、手本を示さず自分で読んでみるのはどうか？
- 文構造が複雑なものは、分かってから使わせる方が効果的ということはないかと？

杉本先生

「赤ちゃんが言葉を習得していく過程は、分からなくてもまねして使っちゃう。そちらに近づけたほ



うが自然。分かってから使うというのは、かなり訓練された後だろうと思う。中学校段階で説明してもそこで分かっている生徒はあまりいない心配もある。だから高校でもやる、その先でもやるのだろうと思う。分かることと使えることの垣根を緩やかに捉える。とにかくまねしてれば使えちゃう。例えば、ビンゴのトラベルマップのやりとりで、How long have you been there? I've just arrived. というやりとりは練習していれば言えちゃう。これが、現在完了形の完了用法であるということが分かるのはずっと後でいい。むしろ分からなくてもいいくらい。説明したからわかるわけではないし、分かるから使えるわけでもない。「分かること」が何を指しているのか？使えているということは分かっていると捉えてもいいのではないか。「文法的に説明できる」のであれば勉強が必要。でもこれほどまで必要か？Can-do はいろいろ考えて作るが「ある文型を日本語の文法用語を用いて」説明できるという Can-do を作ることはないのでは？」

第3部：題材・主題：Never Ending Stories

- 「英語の授業で脱線は大事？」と言われるが・・・
- 英語じゃない話？
- 英語を使っていろいろ考えて、伝えようとしている限り脱線ではない？
- 「本線に行くということ」は文型を説明すること？
- 英語の授業で先生が英語を使って話しているうちは、かなり関係なさそうな内容でも脱線ではないのでは？

広島・平和

- Peace Message 2001：インターネットに授業のまとめとして、インターネットとうろう流しにメッセージ（インターネット掲示板）を投稿しなさいという課題
- 平和宣言：広島市長さんの英語の Peace Declaration を視聴。3年生には夏休みに、英語版・日本語版を見ていることを課題とする。すべてわからないと意味が通じないということはない。メッセージをとって必要して大事なことは生徒たちはちゃんとキャッチできる。
- 『夕凧の街・桜の国』の英語版『Town of Calm, Country of Cherry Blossoms』を2冊並べて教室においておく。セリフ「いきとってくれてありがとな」を英語にすると？
- 佐々木貞子さんの像の腕が切り落とされた事件
- 教科書の内容のリテリングの最後に、自分の平和宣言(Peace Declaration)をしてみよう！

人種・差別

- キング牧師
- モンゴメリのバスボイコット、ローザパークス
- Black lives matter
- Billie Holiday の Strange Fruits (1939)：英語自体の文字面を理解することは難しくない、でも、メッセージを理解できるかどうか？
- 20ドル札の肖像を奴隷解放運動家の黒人女性ハリエット・タブマンに変更する話題
- 日本に奴隷はいるのか？「世界が「奴隷労働」とみる技能実習制度の虚構」



ことば

なくなりそうな言葉

- 世の中には約 6,000 の言語がある。そのうち約 2,500 の言語が消滅の危機にある
- 言葉がなくなるとはどういうことかを考えさせる
- 『なくなりそうな世界のことば』
- ウェールズという言葉：Welsh は 21 世紀にはなくなる言葉であろうと言われていた。
- ユニオンジャックに何でウェールズの国旗がないのか？
- 学校で、Welsh を使うことを禁止
- 日本でも、沖縄「失われつつある言語、ウチナーグチのいま」
- 『IYOMANTE』：アイヌ語、日常生活で普通に使える人が 5 人
- 沖縄の言葉、アイヌのことばは、「方言」？
- 英語で卒業論文集：教科書の内容や授業で見た映画など感じたことを、卒業時にもう一度まとめる。

第 3 部：題材・主題：Never Ending Stories

- 「英語の授業で脱線は大事？」と言われるが・・・
- 英語じゃない話？
- いつも偶然：いい出会いは必ずある、当てにしないでただただ待つ
いつどこでは分からない⇒「振り返ってみた時に点は線でつながる」
- ①知る②考える③行動する⇒「知ることは感じることの半分も重要ではない」
【感動、感激、震撼】のある生活
- 遠くに見えるものは、地球は丸いので自分の背中が見えてくる
自分の背中が見えたら、そこから新しい目で世界を見る。また違って見えてくる。
- 好きなことは、ずっと好きなままで
- 今まで紹介したような内容は
すべて必要か？YES
すべて扱えるのか？NO
すべてやらなくてもいいのか？YES, But...

まとめ

- Stories Never End. Keep Your Eyes Wide Open.
- いろいろな、話題テーマがある
- それを集約するのは「Cognitive Empathy：認知的共感」＝異なる立場や主張を受け止める能力（判断を防ぎ、人と人をつなぐ能力）
- Sympathy（感情的な共感）だけではない
- まず種を、結ぶのはずっと後でいい、いつ誰にまかれた種なのかは思い出せなくてもいい。
- 本物に触れさせる。もとが英語なら英語でアプローチ。
- いつか必要なきに自分で学べるように。



生徒にとっての分岐点

- 英語の自信：口をついて英語が出てくる
- 英語への興味：心が動かされる体験

参加者から

- 杉本先生の壮大なお話に、私自身も心が動かされた。
- 英語を学ぶ必要性は何かを聞きたい

杉本先生

「できるだけ色々な人と話をしたり付き合ったり。いろいろな人を巻き込んでいけるのが教師の醍醐味。英語だけというわけではないが、英語だけでも今日話したようないろいろなことができる。ひとつのチャンスになるのではないか？」

- リテリングを中心に授業をしている。「教科書を使うように、教科書の中にも重要な語彙がある、教科書にある活動を飛ばさないように」と助言いただいた。どう思うか？

杉本先生

「やらなきゃいけないことは全部やらなくてはいけない。でも、取捨選択というか、やらないで飛ばすのではなく、どこに重点を置くかをこちらで選べる。最後の話にあったように、引き込めるものが出てきたときに、そのチャンスを逃さないこと。それは教科書以外から出てくることもある。教科書だから使わなくてはいけないが、それは先生方が読み込んでどこでどの程度使えばいいものか？どこを使うかというよりは、どこまでは切り捨てていいものかという判断をしっかりとる。その時に生徒たちが、こちらを向いて頷いているものは支えになる。そういう関係・指導の流れを作っておくことが大事。今の教科書を隅から隅までやろうとすると週7時間でも足りないボリュームである。選べるということは重要。生徒にとっても、自分にとっても残しておきたい。

- 小学校の外国語に、心として期待すること

杉本先生

琉球大学の犬城先生が「中学校の先生方は滑走路の助走期間がなくなって、早く始まったと思ってください」と言われて、すごくすんときた。滑走路が長くなると、いろんなことがゆっくり出来て、離陸の準備がたくさんできる。いろんなことを受け入れる素養にもなる。それは何かを覚えれば終わる、何かができればそれでいいではなく、ずっと続いていくことだと思う。アニメや漫画など面白そうなことを片っ端から話題に挙げてほしい。そういう素養を持った生徒が入学してくれば、中学校の先生も教科書だけやっていればいいというわけにはいなくなる。

丹藤先生から

- 説得力のある先生のお話を聞くたびに、教師の確固たる belief を感じる
- 過去の経験、社会的なコンテクストがあって、belief が形成される
- 今回参加されたみなさんも、杉本先生の背景にあるものを感じたと思う
- 参加された先生も、それぞれの belief を見つめなおす機会になったのではないか
- Tips 紹介のような内容の勉強会で、それをそのままやってもうまくいかないことが多いが、それは



根本にある belief が異なるからであることが多い。

- ▶ 話したりないことがたくさんあると感じたので、第二段を企画してほしい。

おわりに

杉本先生の話の聞いたり、授業を見せていただくといつも思うのは、「教材研究」という言葉の持つ意味です。大学の時に実習の先生に「教材研究をしっかりとね」と指示されたときも、「研究」という言葉が大きさで聞こえて、あえて「授業準備」という言葉を使っていました。でも、杉本先生と出会って、教材研究とはこういうことか！こういうことをするから、授業準備ではなく教材研究というのだなと納得させられました。また、大学の教育法などで「生徒に1教えるには、教師は10を知っていなければならない」と言われます。これも同様に、大学の時には、またまたおおげさだと思っていた（当時の大学の先生ごめんなさい。）。でも、杉本先生の授業を見て、10 といつか 50 といつか 100 くらいの内容を知って授業にのぞんでいるのだなと感じました。杉本先生と出会って20年くらいになり、ずいぶんいろいろご指導いただいておりますが、その度に新しい発見や学びがあります。今後もぜひお話をお聞きしたいと思っております。

杉本先生、お忙しいところありがとうございました。

（文責：佐藤 剛）